

鉄道プロジェクトの評価手法マニュアル改訂に関する調査検討委員会  
第1回委員会 議事要旨

日時：令和5年2月22日（火）10：00-12：00

場所：運輸総合研究所2階会議室（オンライン併用）

出席者：

（委員のみ、敬称略、順不同）：※全員オンライン出席

- ・ 家田 仁 委員長 政策研究大学院大学教授
- ・ 伊藤 香織 委員 東京理科大学教授
- ・ 岩倉 成志 委員 芝浦工業大学教授
- ・ 大串 葉子 委員 椋山女学園大学教授
- ・ 田邊 勝巳 委員 慶応義塾大学教授
- ・ 村上 早紀子 委員 福島大学准教授
- ・ 伊藤 真 委員 （独）鉄道建設・運輸施設整備支援機構建設企画部調査課長  
その他国土交通省鉄道局より行政委員が出席

#### 大串委員

- ・ 評価軸の多様化は重要。B/Cが1.0以下になるものもシビックプライドが重要だからやろうということの意思決定をする時に許される内容にするのか。

#### 家田委員長

- ・ 今の評価においては、B/Cが1.0以下というのは社会的割引率を4%とした数値というだけの話である。極論で考えるのはよくない。
- ・ B/Cを見すぎるのも、見なさすぎるのも問題で、真剣に議論することが必要。マニュアルは意思決定をするためのものではなく、検討するためのもの。

#### 伊藤委員

- ・ まちづくりへの効果として、脱炭素やウォークアブル、コンパクト・ネットワークが挙げられる。広域的に都市構造や交通行動が変わるのかを評価してはどうか。駅前活用で都市の更新が進むことを評価することが重要。
- ・ シビックプライドについては、地元の人に関わることが重要であり、計画段階から地域と共に考えていくというプロセスを踏めているかどうか重要。

#### 村上委員

- ・ 時間軸、タイムスパンが、期待する効果に影響するのでは。数値的に表現しやすいのは数年単位で表せるが、まちづくりなどは次のマニュアル改訂でも大きな効果として発現していない可能性もある。時間軸、長期的な視点も大事。
- ・ 鉄道を取り巻く効果が発現する中で、維持、活性化に向けて、住民が育つことも効果。鉄道沿線の活性化に関連する組織がどのように活発化するか、効果発現に寄与しているのかも、コラムのような形で示してはどうか。

#### 家田委員長

- ・ カーボンニュートラルという観点では、CO<sub>2</sub>の評価など社会的割引率の4%を当てはめると、100年後などはほとんど意味がないものになる。長期的な視野としてはそういう点も考慮することが重要。

#### 岩倉委員

- ・ 事後評価は長期で実施していくべき。
- ・ 鉄道は子供が1人で移動できるという意味で、子供にとっても使いやすいという価値がある。地方では、鉄道が無い場合は高校生が下宿しないといけないなど、家族と過ごすことができない。家族との時間を増やすことも重要であり、クロスインパクトなどの健康に関することも価値がある。バスタ（新宿）も鉄道がないと展開できていない。他のモードへの展開という意味でも価値がある。
- ・ 地域間公平性、世代間公平性、所得格差、ジェンダーの公平性など、鉄道があるから子供を育てやすいということも含めてどこまで検討するか。

#### 家田委員長

- ・ つくばエクスプレスは宅鉄法で整備したが、鉄道事業とまちづくりのペースは違う。

開業当初は都市開発が進まなかったが、結果的には鉄道と都市開発が一体となって良い結果となった。一体評価という時にはタイムスパン、割引率の論点はセット。

- ・ カーボンニュートラルについて、鉄道はそれに貢献できる事業なのにそれをどう考えるか。

#### 田邊委員

- ・ 事後評価をどう考えるか。開業後 10 年、15 年で考える必要があるのか、答え合わせをするためのものなのか、何を求めるのか。
- ・ シビックプライドは公平性とか、新幹線が出来て所得格差が縮まったのか、交通サービス水準の公平性の改善なのか、そうすると、波及効果なのか、機会の公平性が担保されているかどうかを定量的に示すのか、鉄道はそこまで見なければならぬのか。それとも既存研究をサーベイしていくということなのか。

#### 家田委員長

- ・ 治水事業などではモニタリングを行うのは当然の責務である。

#### 伊藤（真）委員

- ・ コロナでの減収による負担増の検討など、面的な周辺の評価にも活用できると良い。
- ・ 移動の話では人口カバー率や、一日で日本全国の人にどれくらいに効果があったなど、評価としてであると良い。

#### 家田委員長

- ・ 鉄道が公共貢献をする際、評価に含まれているか。例えば連続立体交差化事業について、公共貢献で保育所ができるなどの様々な効果はマニュアルに入っているか。

#### 事務局

- ・ 連続立体交差による効果は時間短縮などが挙げられるが、その点はマニュアルにも記載がある。しかし、公共貢献の効果についてはマニュアルには表現されていないのが現状。

#### 家田委員長

- ・ 事前の新規事業採択時評価では公共貢献の効果について触れることは難しいだろう。しかし、例えば地下化された東急目蒲線の地上部は緑道になっており、地元で活用されているが、それは事後評価では評価しても良い。
- ・ 事例やデータなど鉄道事業者の協力を得ながら事例集を作成することが重要。

#### 大串委員

- ・ 読んで楽しいマニュアルが良い。面白い例が出ていると、楽しいまちづくりもやっで良いのだということも想起させるようなものをしてもらいたい。

以上